

経理5年目！

みんな学んだ

「経理のヒント2」

次のステップへ進みますか？

これから管理部門を
支えるのは・・・
成長を遂げた未来の
「あなた」です！

Manabeat

電子書籍化シリーズ

第9弾

中村 雄介・泷ノ上 誠(共著)

はじめに

「太陽は夜が明けるのを待って昇るのではない。
太陽が昇るから夜が明けるのだ」

皆さまはじめまして。

私は中村雄介（なかむらゆうすけ）と申します。

上記のフレーズは

「教育界の国宝」

と呼ばれた東井義雄さんの言葉です。

私の大好きなフレーズで

私の名刺の裏には

「人生を照らす言葉」

として記載しております。

遅ればせながら自己紹介させていただきます。

私は中村雄介と申します。

かれこれ15年ほど「教育」の仕事に関わらせて頂いております。

2011年の9月に独立し

株式会社マナビートという小さな会社を経営しております。

<http://www.manabeat.jp/>

企業と医療機関の管理部門を専門にして

「業務フロー」を作成することで経理部門を強化する方法をアドバイスさせて頂きながら
ともに管理部門の社員さまと成長できることに
日々喜びを感じながら仕事をさせて頂いております。

これから始める

「経理5年目！みんな学んだ経理のヒント」

は私どもが管理部門の仕事に携わりながら

文字通り「身体で覚えた」ノウハウを中心として

経理部門に関わる皆さまの日頃の業務の中で直面する

不安や悩みを解決するヒントになれば・・・

という思いで私の会社のホームページに

「ブログ形式」でつづっている内容を電子書籍の形にまとめさせて頂いているものです。

ホームページと連動して「連載」していきますので

どうぞ最後まで楽しんで頂けますと幸いです。

もくじ

【収録内容】

第1講：勘定科目の設定

第2講：修正仕訳

第3講：証憑を保存する

第1講：勘定科目の設定

月次決算の処理精度とスピードを上げ、
分析に力を注ぐための方法として、
「勘定科目をきちんと整理する」
ということがあります。

勘定科目の区分が大きすぎると
一つの科目にいろいろな取引が含まれることとなり、
日常処理時は時間をかけずに行うことができますが、
月次決算で科目の内容を検証するのに手間取りますし、
分析時もざっくりとしたものとなってしまいます。

それでは効果的な分析、提案ができません。

※例：勘定科目の区分が大きすぎると・・・
顧問料もコピーカウント料も清掃もPC設置もシステム維持費も
全てを【役務費】として一括りにしてしまっている。

日常処理は、「社外の方が行った作業は役務費」と簡単だが、
月次担当者はスポット的な作業か毎月定例取引化か、
また、内容の計上漏れがないかや予算対比を行うのに
《感覚》で全体をキャッチすることができずに
分解と整理の作業に時間を取られてしまうこととなる。

逆に勘定科目の区分が細かすぎると
日常の仕訳処理に時間がかかってしまう上に
小区分（＝補助科目）の違いのたびに
細かい修正仕訳を起票しなければいけません。
また分析時も、小さな箇所に目がいてしまい、
時間がかかってしまいます。

※例：勘定科目の区分が細かすぎると・・・
【役務費】は顧問料が[税理士][弁護士][司法書士]に分かれて

清掃は[オフィス巡回][ゴミ回収][粗大ごみ]、
PC関係は[PC維持][サーバー維持][複合機][修繕]など煩雑に分かれている

これでは、日常処理で時間がかかってしまう上、
処理担当者によって処理科目が相違してしまったり、
判断、入力ミスが起こる原因となってしまう。
仕訳の物理的削除はしないという大原則に立てば、
修正仕訳が増え、BS／PL上で0残高を表示させてしまい、
決算書の全容を《感覚》で把握しづらくなる。

継続性の原則もあるので大幅な変更はできませんが、
会計ソフト上の区分（＝補助科目）の運用変更は可能です。

ずっとこれで来ているから・・・ではなく、
効率的で迅速な月次決算を行うためにも、
会計原則は守りつつ、適時運用変更を行う勇気も必要です。

第2講：修正仕訳

月次決算を確定させるために、修正仕訳をおこす必要があります。
未計上の仕訳はそのまま計上すれば良いですね。
では科目相違が見つかった場合、どうすれば良いのでしょうか。

伝票の削除を行うと、今ある試算表の元が崩れてしまいます。
かといって反対伝票をおこして、修正仕訳を計上すると
手間がかかるし、伝票の数が増えてしまいます。
特に業務委託をしている場合は仕訳数、
さらには仕訳明細行数で課金されてしまいますケースがありますので
手間、時間、コストの面で効率的とは言えません。

修正仕訳を起票する際は、科目の修正のみ行いましょう。
これは実際に行っている方も多いことでしょう。

では、修正仕訳を起票する時はどうすれば良いのでしょうか。
もともとの仕訳が簡単な仕訳であれば問題ないですが、
複雑な経緯の仕訳では、修正仕訳を間違ってしまう、
さらに仕訳数が増えて複雑になるケースがあります。

修正仕訳はまず、証憑をもとに正しい仕訳を描きます。
それから、今の間違っている仕訳を横に並べてみます。
そうすることで、修正するポイントと科目が解ります。

慣れるまでは時間がかかるかもしれませんが、
複雑な仕訳の修正を行うことで処理の実力が上がります。

第3講：証憑を保存する

経理の業務を行ううえで『書類』はとても重要です。
決算書など正式な書類は様々な規定で保存期間が定められているので
きちんと保存しておかなければいけません。

だからと言ってすべての書類を保存していると
場所の確保やコストがかかってしまいます。

では支払時や修正仕訳で利用した証憑については
何をどのように保存しておけば良いのでしょうか。

支払時の証憑については、支払日ごとにまとめて綴じます。
関係先から調べものを依頼された場合、支払日はある程度わかりますし、
支払日が解らない場合でも預金通帳からさかのぼることも可能です。

相手先別、用途（科目）別に綴じる方法もありますが、
通帳からさかのぼる時に複数のファイルを探さなければいけなくなり、
必要以上に手間がかかってしまうこととなります。

大口や毎月取引している関係先からの調査依頼であっても
支払日はわかっていますので、手間どることはありません。

綴じるファイル数が増えるとファイル備品も必要ですし、
保存場所も必要、つまりコストがかかることとなります。

関係先からの調査依頼は、通常取引よりも
突発的、変則的な取引を行った場合に依頼されるケースがほとんどです。
保存した後に、どのように手早く見つけることができるか。
を念頭に置いて書類を保存しておく必要があります。

著者プロフィール

【著者および編集者】

中村 雄介（なかむら ゆうすけ）

株式会社マナビート

<http://www.manabeat.jp/>

代表取締役 兼 人事総務コンサルタント

昭和48年9月3日生まれ

長崎県長崎市出身

長崎大学経済学部卒

大学卒業後に福岡にて金融業界に勤めるも肌が合わず退職。

心機一転、「教育業界」を目指して

小中学生を対象とした個別塾業界に転職。

二教室を担当する指導者兼教室運営責任者、

生徒募集を専門とした企画開発部員を経て

幼児から小学生を対象としたスポーツスクール運営企業の創業メンバーとして独立。

まったくゼロから管理部門を立ち上げ、

スクール運営を裏から支える「後方支援」に特化した管理システムを構築する。

トップマネジメントの一員として

福岡にて社員数10名からスタートし全国17拠点・海外2拠点

会員数3万名・社員数400名規模までの成長を支える活動を行う。

創業10年を区切りとして2011年に独立。

企業と医療機関のための管理部門の専門家（エキスパート）

株式会社マナビートの代表取締役兼人事総務コンサルタントとして

管理部門（主に人事総務部門）に特化して

「面接」のやり方や「いい人財」を見分ける方法のアドバイスを専門に行い

企業と医療機関の管理部門スタッフの成長に貢献。

致知出版社公認「応援ブロガー」22名のひとり

致知出版社で現在唯一の「致知仲間」認定

パワー&エレガンス魅力学講座修了生

魅力学エグゼクティブ講座修了生

感動魅力学受講生

インターナショナル魅力学協会員

【著者】

淵ノ上 誠（ふちのうえ まこと）

株式会社マナビート

<http://www.manabeat.jp/>

経営企画部 ゼネラルマネージャー 経理専門コンサルタント

昭和51年3月23日生まれ

佐賀県伊万里市出身

航空系グループ企業の経理部門で管理会計業務に12年間携わり、
貸借対照表（BS）を重視した月次決算と経営者目線の収支分析、
予実管理から業績予測までを行う。

実績に基づいた管理会計ノウハウの伝達により、
経理実務者の『ありがとう』の声を集める。

「経理」も「美肌」も秘訣は毎日の積み重ね
「BS重視No.1月次決算のエキスパート」。

経理5年目！みんな学んだ「経理のヒント2」

<http://p.booklog.jp/book/61125>

著者：中村 雄介

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/entity69606/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/61125>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/61125>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ